

令和2年度 第1回四條畷市立図書館協議会会議録

1 日時 令和2年10月28日（水曜日） 午後3時30分から午後5時10分

2 場所 市民総合センター2階 集会室

3 出席

(1) 図書館協議会委員

○出席委員は次のとおり

福井 多恵子会長 高垣 聡美副会長 羽森 清司委員 平山 明子委員

辻野 栄子委員 大庭 つばら委員 北本もと子委員 林 美香委員

小林 初根委員

※欠席：乾 昭彦委員

※「四條畷市立図書館協議会運営規則 第6条」により、出席者が定数の過半数に達しているので協議会は成立

(2) 四條畷市教育委員会事務局の出席者は次のとおり

上井教育部長 阪本教育部次長兼青少年育成課長

田中図書館長 福井分館長

4 議題 次のとおり

(1) 新型コロナウイルス感染症防止にむけた図書館の取組みについて

(2) 令和3年度予算編成について

(3) その他について

5 本日の議事次第記録者 次のとおり

田中図書館長

6 開会

田中館長

それでは、定刻になりましたので、ただいまより、令和2年度第1回四條畷市立図書館協議会を開催いたします。

委員方々におかれましては、ご多忙の折、ご出席いただきありがとうございます。なお、乾委員におかれましては、所要のため欠席との連絡をいただいておりますが、委員数10人中、過半数の出席をいただいておりますので、本日の協議会は、四條畷市立図書館協議会運営規則第6条の規定により、本会が成立いたしますことをご報告させてい

たきます。

それでは、議事に先立ち、まず事務局の出席職員を紹介させていただきます。

(以下、職員の自己紹介)

田中館長

次に、今回は今年度第1回の開催ですが、今年度は新任、退任の方がおられませんので、自己紹介は省略させていただきたいと思います。今年度もよろしくお願いいたします。

では、次に事前にお配りしております資料の確認をお願いいたします。

- 1点 開催のご案内
- 2点 資料①新型コロナウイルス感染症防止にむけた図書館の取り組み
- 3点 資料②平成31年（令和元年）度主な図書館事業の実績
- 4点 資料③令和2年度予算措置状況

次に、本日、机上配布させていただいております資料ですが、

- 1点 本日の次第
- 2点 こどもスタンプラリーのチラシ

以上でございますが、皆様、全ておそろいでしょうか。よろしければ、以上の資料に沿って議題を進めさせていただきます。

それでは、議題に先立っての説明は以上です。この後は、議題に入りますので、進行は会長をお願いいたします。

福井会長

皆様こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。前回、3月末の図書館協議会の折、著名芸能人の新型コロナウイルスによる訃報が流れまして、大変驚きました。当時は2、3か月で収束するものと思っておりましたが、半年以上経った現在も、一時収まりかけてはいましたが、世界的にもまた感染者が増えている状況です。ウィズコロナということで、一緒に共生していかないといけないということですね。このウィズコロナの時代に図書館行政、あるいは図書館事業をどのように推進させていくのかを、これから新たな課題として本日は念頭に、熱心なご議論をいただきたいと思います。ただしこういうご時世でございますので、感染予防の観点からできるだけ簡潔に、そして効率よく進めさせていただきたいと思いますので、どうぞご協力よろしくお願いいたします。しかし、すぐに終わらましようということではなく、熱心なご議論は

よろしくお願ひいたします。

それでは、議事を進める前に、四條畷市立図書館協議会会議の傍聴及び会議録要領の第9条の規定により、会議録を作成する必要がありますので、同条第2項に基づき、会議録の署名委員を指名いたします。

本日の会議録署名者は、羽森委員にお願いしたいと思ひます。

羽森委員

はい。

7 議事の要旨

福井会長

議題1 新型コロナウイルス感染症防止にむけた図書館の取組みについて、事務局から説明をお願いします。

田中館長

3月の協議会開催時に、政府からの学校休業要請の発出により2月29日から休館となったことを報告させていただきましたが、その後、5月18日まで休館を継続することとなりました。

5月19日からは、先に政府から「図書館など文化施設については十分な感染防止対策を講じたうえで、制限緩和を可能とする」旨が示されたことを受け、貸出を再開いたしました。歴史民俗資料館とともに社会教育施設としてはいち早くの開館となりました。

この時点では、密集密接の防止対策として、入館はご遠慮いただき、事前予約の本の受渡しから再開させていただきました。予約いただいた方に連絡させていただく際には、1日あたりの連絡数を調整のもと、来館人数の抑制を図りながら、1週間でほぼすべての予約確保本の貸出を終えるようにいたしました。

続いて、翌週5月26日からは開館を再開し、書架を見ながら本を選んでいただけるようにいたしました。開館にあたっては、感染防止対策として、入館人数、滞在時間、椅子の撤去などの利用制限を設けるとともに、万が一来館者の感染が発生した際には、同じ日に来館した方に連絡ができるように、入口に受付を設置のもと、お名前などをひかえさせていただくようにいたしました。

続き、6月15日からの学校の授業再開に合わせて、6月17日には制限を緩和いたしました。滞在制限時間の延長、椅子の一部設置、閲覧制限の撤廃などでございます。

入館受付制と人数制限については、感染拡大防止の必須対策と考え、継続させていただき、現在に至っております。

次に、2 行事再開について。貸し出しは5月19日から再開しましたが、行事については密になりやすいことを鑑み、6月末まで再開を見合わせました。7月1日からは、座位置を固定のうえ、参加者間の距離を確保しながら、定員を設定のもと、再開することとしました。今のところ、特に問題はなく実施できております。

次に利用状況について。再開当初は、コロナ禍前の約半数にとどまっておりますが、徐々に回復し、コロナ禍前の7から8割ほどまで回復しております。

貸出利用人数の回復が緩やかになっておりますのは、貸出期間を通常の2週間より長めの3週間の設定にしていることから、来館サイクルが緩やかになっているものと推察しております。

以上、新型コロナウイルス感染症防止にむけた図書館の取組みでございます。コロナ禍においても安心してご利用いただけるよう、新しい生活様式を踏まえる等、今後も感染防止に努めてまいりたいと思います。

以上、簡単ではございますが、議題1の説明です。

福井会長

ただ今の事務局からの説明について質問などございませんでしょうか。

小林委員

人数制限は何人になっておりますでしょうか。

田中館長

人数制限は概ね50人で設定しております。ただし、時間制限を1時間以内で案内させていただいていることから、皆さん早めにお帰りになりますので、人数制限を超える事態は今のところはない状況でございます。

大庭委員

図書の消毒はどのようになっていますでしょうか。

田中館長

返却があった本を、基本全て消毒しております。次亜塩素酸といわれる液を水で薄めまして、雑巾等で表面を拭く方法で対応しております。紙の部分は消毒が難しいので、中の部分までは対応できていないのですが、国際図書館連盟 I F L A の報告によると、紙の部分は24時間で感染能力が格段に低くなるということです。

福井会長

ありがとうございます。他にはございませんか。

いくつか行事も中止になりましたが、市民の方から要望などは特になかったでしょうか。

田中館長

開館から約1カ月半、行事がない状況でしたが、行事再開についての問い合わせは特にございませんでした。

林委員

業務負荷について、職員の仕事内容が大きく変わってしまったのではないかと思います。行事も無くなったことですし、どのような状態ですか。多忙になったのでしょうか。それとも余裕がある状態でしょうか。

田中館長

ご心配おかけしております。確かに利用者の数からみますと、コロナ禍前の7割から8割になっておりますので、窓口対応は減っている状況ですが、返却本を全て消毒していますので、1日何百冊もの本を職員で手分けして処理しておりますのに加え、入口に受付を設置して1人配置していることから、開館時間内はコロナ禍前と比べましたら、職員の業務負担に関しては、多くなっている印象があります。

阪本次長

この間、大阪府がQRコードを使ってコロナ追跡システムを独自に開発したり、国のシステムもありますが、市民利用の状況を見ますと、なかなかスマートフォンで登録までいかない現状でございます。公民館などもサークル単位で代表者の方に当日の利用者を把握していただき、図書館は個々に把握していただく。それからスポーツ施設でも当日参加したメンバーを把握していただいております。万が一そういう事態が発生したときに市独自で連絡が取れるというような体制を考えての手段ということで、図書館には今日も1人入口におりましたけれども、その点では負担をかけている状況でございます。

高垣副会長

最初に図書館の受付を見た時に、私は市役所の出張作業の受付かと思って分からずに入ろうとしたんです。分かれば受付を通るのですが、横から入っていけるので、図書館入館者はまずこちらというのがもう少し分かるようになっていた方が良くないと、最初の時に思いました。

田中館長

受付設置当初は、確かに気付かずに入ってしまう方がいらっしゃるのではないかと懸念していましたが、センターの玄関入口前とエレベーター前に受付がある旨を掲示しているのに加え、出口と入口を一方通行にしていることで、受付があることを把握して来られる方が思った以上に多い状況です。

小林委員

コロナ禍の最中で、目の前のいろいろなことをはじめて関わりながら精一杯されていて、それどころではないと思いますが、このような状態が長引くことが見えてきた時に、最初に、本当に家で閉じこもっていないといけない人が必要としているのは本だと思ったのです。特にお年寄りや学校が休みになった子どもたちが、本があればなんとかしのぎながら生活できるものを、このような時に借りられないのかとすごく思いました。

また、これから別の形で図書が本というかたちが使えなくなるということが起こるだろうから、世の中の図書館の利用の在り方が変わって来ているなかで、新しい利用の仕方や目先の変わったものを探りながら進んでいっていただきたいと思うのです。そこで今の時点で、何かこのようなことが見えてきましたとか、考えていきますということがあればお聞きしたいです。

私は大東市に住んでいるので、大東市の図書館しか使わないのですが、受付はありません。入口に電子で持ち出しをチェックするものはあるのですが、2週間ほど前に行った時も、チェックなしの入館で、自分で消毒して、聞きたいこともカウンターで直接、ビニールはかかっていましたが、マスクをしながら普通にやり取りができたので、もうこういう状況なのかと驚いたのですが、電子図書の貸出を11月から始めることが広報に載っていて、新しいことだと思ったのです。コロナ禍とは関係なく計画されていたのが、この時期になったのだと思いますが、この図書館も高齢者の利用がすごく多いので、なじむかどうかは最初は難しいとしても、いずれ家で本がなくても読書ができるようになると思っています。このようなこともこの機会に考えていただければと思います。

田中館長

まず、新しい利用形態につきましては、また何か月か前のようなかなり厳しい状況になった際には感染防止をまず考えなければならないことから、通常の開館は無理だと思っています。その際の対応としては、利用者間での接触がない状況での貸し出しということで、5月19日からやっておったような予約制で、連絡させていただいた方のみに

来ていただく対応にならざるを得ないと考えております。

大東市が導入される予定の電子図書につきましては、大阪府では堺市立図書館が最初に導入されましたが、その後普及することなく現在にいたっております。日本人の傾向であるかはわかりませんが、実物を日本人は好むという話を聞いたことがございますのと、電子図書の場合、図書館に来て本を選ぶように、一冊一冊中を見ながら選ぶことが難しいということで、図書館では普及に至らなかったものと思っております。

しかしながら今年度、4月から5月以降、休館が続く状況のなかで、電子図書を導入されている図書館での電子図書の貸出が、例年に比べると何倍にも増えたという記事を目にしたことがあります。また、その状況から、電子図書の導入を検討する図書館が増えているという話も聞き及んでいます。この状況に鑑み、四條畷でも導入を検討しなければならないと思っているところでございますが、ひとつ課題がございまして、導入当初にかなりの経費が掛かることの他に、コロナ禍前には普及にいたらなかったという実態があることから、感染症が治まった時に、あまり利用されない状況に戻ってしまうのではないかと懸念しております。かなりの経費を投入したにもかかわらず最終的にあまり利用されなくなってしまう可能性があるのは、課題ではないかと思っており、今後の生活様式で図書館の利用形態がどのように変わっていくか、しっかりと見定めながら検討していきたいと思っているところでございます。

上井部長

補足してよろしいでしょうか。少し図書館の電子図書とは離れますが、文部科学省が示します、G I G Aスクール構想という取組みがございまして、ご説明いたしますと、小中学生に一人一台の端末を配布し、それらを授業等に活用し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びを実現するという構想が示されたところでございます。本市も今年度中の導入に向けて担当課で着々と進めているところでございます。今後、子どもたちはそのような端末を活用しながら、まだ電子書籍の導入や教科書がすべてデジタル教科書になるという明確な方針はないのですが、ご指摘、ご意見をいただきましたように、ウィズコロナのなかではI C T機器やパソコン等端末の併存併用、そんな時代を迎えるのだなと感じているところでございます。

学校現場がそういったところで進んでいるなかで、図書館においても今ご提案していただいたようなことも広がっていく方向になるのだろうと予測しておるところでございます。

福井会長

ありがとうございます。市の方々もそういうことを念頭においていただいているということが分かりましたので、今後、電子機器の普及具合、それから利用の形態等を、情勢を見ながら検討していただきたいと思います。

高垣副会長

どういう経費がおおよそどのくらい掛かると見込まれていますか。

田中館長

私が調べたのは何年か前になりますので変わっている可能性があります、数百万ほどで、百万円を切るような数字ではなかったことを記憶しています。

福井会長

他にはございませんか。

福井分館長

文化活動の状況でございますが、60歳以上の高齢者の方が激減してしまっていて、圧倒的にコロナ禍で年配の方が減っているという状況でございます。現場としましては、コロナ禍が終わった後に戻るのだろうかというのが一番の不安材料でございます。また、7歳から12歳までの子どもも減っている状況です。現場としては一所懸命本をクリーニングし、田原の場合は前から少し利用が減っていますが、2月以降は60歳以上の方が来館しなくなりましたので、一番悩んでいるのが、コロナ禍においてどうすれば安心してまた来ていただけるかということでございます。

福井会長

高齢者は感染すると死亡につながるということが一番最初に出ましたから、どうしても大事をとってということですが、私もこちらの図書館をしばしば利用していて、徐々にこのように感染防止対策をしていただいているなら大丈夫だということに思ってきました。ロコミで市民の方に広げていっていただけるのが一番良いのではないかと思います。

福井分館長

夏に一旦利用者数が上がったのですが、夏を越してまた下がりました。なかなか元に戻らない状況です。

福井会長

この資料では、来館者数が7割から8割でとどまっているという状況ですか。

ウィズコロナ時代の図書館業務の推進ということで、これは次の来年度の予算編成に向けても若干関係があると思いますので、1の議題はこれぐらいでよろしいでしょうか。

では、次の議題に入ります。議題2、令和3年度予算編成について事務局から説明してください。

田中館長

それでは、議題2について、資料にそって説明させていただきます。

例年、10月は次年度に向けての予算編成が開始される時期でございます。本年度も10月14日付けで市長より予算編成方針が出されました。この方針を踏まえ、まずは11月5日（日）で各課から予算要求を行うこととなります。

この予算要求にあたり、次年度取り組むべき事業を取りまとめることから始めることとなりますが、事業とりまとめに際し、強化すべき点、あるいは新規で開始すべきものなど、協議会委員方々のご意見をいただきたく思います。

ご意見をお考えいただくにあたっては、この後、令和元年度の事業実績、続いて本年度の現状を説明させていただきますので、参考にしていただければと思います。

では、順に説明いたします。まず、資料2、平成31年（令和元年）度主な図書館事業の実績をご覧ください。

まず、1 図書館資料について。

- (1) 図書、①蔵書冊数は、計25万3097冊で、約1,700冊の減少となっております。減少の要因としては、昨年同様、書庫がかなりの飽和状態となったことから、③年間除籍冊数の数字のとおり、本館の方で思い切った除籍を行った結果でございます。
- (2) の雑誌新聞は変化ございません。

続いて、2 利用状況について。

(1) 個人貸出の、①利用のべ人数は、本館、田原合わせた合計が、6万9775人と1万人を超える減少となりました。これに比例して、②貸出冊数も本館、田原ともに減となり、合計約4万3000冊の減少となりました。

減少の一番の要因としましては、やはり、新型コロナウイルス感染症の拡大により、3月、丸ひと月、休館となった影響と考えております。3月は、例年7月、8月に次いで1年で3番目に利用が多い月ですので、利用数に与える影響が特に大きかったものと考えております。ちなみに一昨年度の利用人数は、7,369人でした。

続いて、ページ変わり、(2) 登録者について。

①有効登録者数は、7,282人であり、約1,500人の減となりました。②町丁字別登録者数は、例年同様、田原地区の登録率が高く、外環状線より西側地区が低い状況でございますが、市内全体総じてパーセンテージが減少しています。

続いて、ページ変わり、(3)年齢別統計の①市内年齢階層別利用者数は、7～12歳が約1,500人、41～50歳が約1,800人と、昨年同様、減少数が顕著となっております。

続いて、3 その他の利用について。

(1)団体貸出においては、昨年増加が見られた、保育所幼稚園への貸出が減少しています。種々の要因により遠方へ出かけるのが難しくなっているのではないかと懸念しております。

(2)個人予約においては、年々増加傾向にあったインターネット予約が減少しています。

続いて、ページ変わり、4 行事について。

本館、田原ともに一昨年までのレギュラーの行事は基本的に継続です、コロナの影響でお話し会や人形劇など、中止になった行事がありましたが、全体としては1回あたりの参加人数は一昨年度との比較では、ほぼ増減なしの状況でした。

新しい取組みとしましては、田原図書館において、子ども読書活動推進計画関連事業として、絵本に関する講座を開催しました。2回開催し、第1弾は、絵本作家の谷口智則さんを講師に招いて講演会を、第2弾は、高槻市で文庫活動をされている岩出恵子さんをお招きし、ワークショップ型の講座を実施し、2回ともにほぼ満席となりました。谷口さんの方の講演会に関しては、連動企画として谷口さん自ら発案いただいた谷口さんの絵本を題材とした感想文感想画コンクールも実施し、176人の応募をいただいたうえ、その表彰式では谷口さん自らプレゼンターとして参加いただき、大いに盛り上がりました。

ページ変わりますして、(5)館内展示をご覧ください。テーマを設定のもと、一定期間ごとに入れ替えながら実施している本の展示ですが、田原図書館では、昨年は初の試みとして、田原小学校図書室と連携した本の展示を実施しました。

具体的には、田原図書館で夏休み中に展示する本を見れば答えがわかることを子どもたちにアナウンスのうえ、夏休み前に田原小の図書室で学年別にクイズを配布していただき、夏休みに田原図書館へ来館してもらおうというものです。期待していた以上に、

多くの子どもたちが来館してくれました。

続いて、6 学校図書館支援について。

平成27年度から開始し、段階的拡充に努めてまいりましたが、昨年度は1校四條畷小学校を加え、計8校の支援を実施しました。過去の新規拡充校と同じく、夏季休業期間を活用し、図書ラベルの貼替えや、図書配置の変更等の大きな作業を行いました。

ちなみに今年度は、予算拡充としては同じく1校分ですが、東小学校が廃校となった分の予算削減がなかったことから、2校分の拡充が可能となり、四條畷中、田原中への支援を開始しました。この2校拡充を以て、小中全校の支援員配置が達成となりました。

続いて、7 ビブリオバトル市内子ども大会 in なわてについて。

平成29年度から市内中学生大会として開始したビブリオバトル大会ですが、昨年度は、中学生大会に加え、正式に小学生大会を実施し、名称も市内中学生大会から市内子ども大会に変更しました。小学生児童が、中学生のお姉さんや多くの観客を前に力が発揮できるかと心配でしたが、中学生に負けない堂々とした話しぶりで、頑張ってくれました。

以上、昨年度の主な図書館事業の実施状況です。この実施状況から懸念しておりますのが、全体として利用が減少していることです。コロナ禍による休館の影響があったとはいえ、その分を差し引いても減少幅が大きいと考えられますので、今後、さらなる取組みが必要と考えております。

長期的対策としては、小さい頃から本に親しむことの大切さを保護者へ向けてPRし、家庭においても読書推進に取り組んでいただくように働きかけること。具体的には、子ども読書活動推進計画に掲げている講座開催やPRチラシの配布、また他へ出向いてのPR活動などを強化してまいりたいと思っています。

短期的対策としては、学校と連携している強みを生かして、子どもたちへの直接の働きかけでございます。具体的には、図書室での支援と併せて、昨年田原図書館で実施した田原小クイズ本展示のような学校図書館支援と連動した企画の強化です。

田原図書館では、数年続けて児童書利用の減少幅が大きい状況が続いておりましたが、昨年は、コロナ禍の影響分程度の減少にとどまりました。講座開催や田原小との連携が功を奏したものと考えています。これらのことから、来年度も、講座、そして図書室との連動企画は継続してまいりたいと考えております。

続いて、本年度の現状について説明させていただきます。資料3、令和2年度予算措

置状況をご覧ください。

事業別に説明させていただきますので、各事業の主な内容をご確認ください。

まず、1 利用者サービス事務について。

事業内容は、窓口業務等、利用者への直接サービスに関するものでございまして、非常勤職員報酬、行事開催のための謝礼などを計上しています。

前年度からの主な増減は、非常勤職員の最低賃金の変更による時給増額分、また読書手帳作成のための臨時的な用紙代でございまして、その他、経常的な行事等については予算増減はなく、例年どおりの事業が行えております。

続いて、2 図書館資料関係事務について。

事業内容は、資料の収集、保存、管理に関するものでございまして、図書雑誌等の購入費、資料データの電子化のための委託料、雑誌製本費などを計上しています。

前年度から、主だった増減はなく、例年どおりの資料の収集、保存、管理が行えております。

続いて、3 図書館協議会関係事務について。

事業内容は、図書館協議会の開催でございまして、委員方々の出席報酬を計上しています。例年どおり、2回開催分の予算でございまして。

続いて、4 障害者サービス関係事務について。

事業内容は、通常の活字資料では読書が困難な方へのサービスに関するものでございまして、ボランティア団体への協力報償、資料購入などを計上しています。

前年度からの増減はございません。例年どおりの事業が行えており、大活字本や録音図書の購入等を中心に事業を行っております。

続いて、5 ブックスタート関係事務について。

事業内容は、毎月4カ月健診にて赤ちゃんに絵本をプレゼントするものでございまして、プレゼント用の本の購入などを計上しています。

全国的に少子化傾向ではございますが、想定対象人数は前年度とほぼ変わっておりません。

続いて、6 図書館管理運営事務について。

事業内容は、図書館サービス及び事業を円滑に遂行及び維持管理するためのものでございまして、公用車やコンピュータ等、機器類や設備に関する経費でございまして。

多額の減額となっておりますが、昨年度、コンピュータシステム入替えのための臨時

経費が措置されていたものが今年度は必要なくなったものでございます。また非常勤職員雇用のための報酬費が人事担当課に組み換え異動となったこともあり、経常的予算としては実質主だった増減はなく、例年どおりの業務が行えております。

続いて、7 田原図書館管理運営事務について。

事業内容は、田原分館の開館業務及び資料の収集、保存、管理などに関するものでございまして、非常勤職員報酬、行事開催、資料購入などを計上しています。

この事業も主だった増減はございません。行事謝礼が減額となっておりますのは、昨年度、臨時で措置された谷口さんの絵本講座の予算が減となったものであり、経常分の行事は例年どおり予算措置されております。

続いて、8 ビブリオバトル大会事務について。

事業内容は、児童生徒対象のビブリオバトル大会開催のためのものでございまして、その優勝賞品の予算を計上しています。

予算の増減はなく、今年度も開催予定でございましたが、新型コロナウイルスの影響で、残念ながら中止することとなりました。

続いて、9 学校図書館支援事務について。

事業内容は、学校へ職員を派遣のもと図書室の活性化を支援するものでございまして、非常勤職員報酬や資料の整備のための予算などを計上しています。

予算増額となっておりますのは、1校拡充のための非常勤職員報酬が増額となったものでございます。予算減額となっておりますが、昨年度Windows 7のメーカーサポート終了により、パソコンの入替えを臨時で行った経費でございますので、予算上、実質の増減はございません。

以上、今年度の予算措置状況でございます。全体として、経常分の予算については、従来の業務に影響が出るような減額はなく、一方、増額については、学校図書館支援の拡充分が主なものでございます。

学校図書館支援については、子ども読書活動推進計画の重点施策であることから、今後も予算確保に努めたく考えております。

また、今年度の臨時事業である読書手帳については、在庫がなくなった際には、増刷分の予算を要求したく考えております。500冊作成しましたが、現状では、33冊の配布にとどまっており、想定していたよりも配布数が伸び悩んでいる状況にございます。ひとえにPR不足だと考えており、今月末から始まる秋の読書週間の取組みにおいてP

R強化を図ってまいりたいと考えております。

以上、昨年度の実績と本年度の現状の説明です。これらとともに参考にさせていただきたく、市長発出の予算編成時方針と図書館の予算要求の考え方を併せて説明させていただきます。

市の財政状況については、従前からの全庁をあげた改善への取組みの成果により、令和2年度の時点で一定抜本的な課題は改善されたと捉え、次年度からは負担を抑えながら、じっくりと改善、成長させていく方針を取り、その認識のうえで、主に次の3点には積極的な予算を講ずるとしてしています。

1点は、コロナウイルスについて。直接的な感染症対策のみならず、幅広い支援が必要と考え、新型コロナウイルス感染症に関連する施策。

2点めは、市民の利便性の向上及び職員の働き方の改善に向けて、ICT等の情報化推進に関する施策。

3点めは、各部の運営方針に基づくきめ細やかな施策でございます。

なお、以上3点の積極的に予算措置を行う施策がある一方、付言として、持続的なまちづくりに向け、3年度においても基金に頼らない予算編成をめざすとのことでございます。

なお、各部の運営方針に基づくきめ細やかな施策については、図書館においては、学校図書支援とブックスタートの2事業が対象となりました。

このことに鑑み、次年度へ向けて、図書館にて現在考えている取組みとしましては、この2事業については確実に予算確保に努めたうえ、事業内容の強化を図りたいと考えております。

学校図書館支援については、計画の重点施策である中学生の読書離れ対策として、中学生向けの蔵書を補強のうえ、市立図書館による学校図書館への蔵書面でのバックアップの強化等、連携の緊密化を図りたいと考えております。

ブックスタートについては、田原図書館で実施した絵本に関する市民向け講座が好評だったことから、ブックスタートのフォローアップとして、本館においても絵本に関する講座を開催したいと考えております。

長くなりましたが、議題2の説明は以上でございます。コロナ禍のなか、取組みに制約が生じるものも出ている状況ですが、ご意見をよろしく願いたします。

福井会長

それでは、事務局から説明がありましたが、ご意見ございますか。

辻野委員

先ほど読書手帳をひとえにPR不足ということをおっしゃっていましたが、登録の人が33名ということで、学校を通じてのPRはされていますか。

田中館長

学校を通じてPRする予定でしたが、この4月から5月の状況を見まして、学校でのPRは少し控えた方が良いとの判断で現在まで至っております。読書手帳のために利用が密にならないようにPRを控えていたのですが、一定来館者もそのような状況が見られない状況ですので、今後は学校でのPRを考えなければならないと思っております。

辻野委員

今後取り組むということですか。

田中館長

はい。

福井会長

学校図書館に置いて、児童生徒の皆さんに勧めるという方向ではなく、図書館のみに設置の方向ですか。

田中館長

図書館のみで配布と考えています。低学年ですと、学校で配布しますと、学校で使う読書ノートと混同する子どもがいるのではないかと思いますので、学校と切り分けた形での配布にした方が良いと思っております。

福井会長

はい、分かりました。ありがとうございます。他にはございませんか。

林委員

PR費の設定はあるのですか。

田中館長

読書手帳のPR費ですか。

林委員

全体的にPR不足のように思っており、先ほども予算を要求したうえでPRというお話があったように思ったのですが、図書館事業を自由にPRできる費用というのはおいくらでしょうか。

田中館長

PRに関しては、特に費用を必要とするものはございませんので、通常確保している予算のなかでできる範囲です。先ほどPRと申しあげましたような、保護者向けに出向いて説明させてもらう講座のような場合に、人に来ていただくのであれば、予算は必要になるかと思いますが、通常のPRに関しては特に予算を確保する必要はない状況です。

林委員

館内展示の費用も通常のお知らせも、行事を開催する業務に関する出費の範囲でなされているということですか。田原の展示などはすごくすてきだといつも思っていて、工作してあるものや、貼っているものも、目を引く工夫をすごくされていると思うんですが。

田中館長

はい。本の展示とあわせてやっております。飾り付け等に関しては、予算の費目ですと、消耗品に入っている紙代等から出費しております。事前に概ね1年間使用する紙の量を計算のうえ、予算要求して確保しますので、そのなかで出費しているところです。

林委員

1万1千円ということですか。

高垣副会長

結構シビアですね。減らせるものは減らすのかという印象を受けました。

車検の不要の為とか。

林委員

ここをもう少し増やしても良いのではと少し思いました。1万1千円で今年予算がついている。昨年より多いのかなと思いました。これは事業次第ですね。読書手帳でさえ作成の用紙代で1万1千円になっていますが、例年は6千円ぐらいで賄われているということだと思うので、消耗品のうちからいくらか展示に使われているということですね。

田中館長

左様でございます。

林委員

別項目を挙げて、展示に今年これだけ使うと示す試みがあっても良いのではと思いました。意見です。

福井会長

ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

小林委員

ビブリオバトルで紹介された図書は図書館においてあるのでしょうか。

田中館長

全てではありませんが、おいてあるものが発表されることが多いです。

小林委員

せっかくそれぞれの学校の代表者が、これは良いという意気込みで紹介した本の結果が出て、優勝と準優勝が決まって学校に持ち帰り、その結果が広報などで知れ渡ると思うのですが、それだけ推薦された図書を、興味をもって読んでみようと思った時に図書館にないというのは、せっかくやったことが十分に生きないと思うので、置いていただければと思います。

それは学校の取組みとしても、代表者が出て行って発表した結果を校内に持ち帰り、生徒たちに返すということを意識して取り組めば、ビブリオバトルはもっと参加する子どもだけのものではなくなると思うのです。

今年度は学校図書館の支援に重点を置くとなっておりますが、私は中学しかわかりませんが、今の中学生に本を読ませるのはなかなか大変なことで、一所懸命やっておられるし、どういう図書がいいかということも、いろいろ参考にして選んで、学校図書館支援員も置いていただいて、図書館の環境づくりにすごく力添えしていただいているというのはわかるのですが、それでも生徒はなかなか読む方向にならない。それはなぜか一概に言えませんが、生徒自身が忙しいところもあるのでしょうか。そして、もっと教科で図書館を活用したような取組みや意識付けを教師が率先してやることも必要でしょうし、やはり興味を引き付ける工夫を、新しい試みとして取り入れていただきたいと思います。

私に何ができるかと言われたらアイデアがないのですが、例えば、一般の図書館でも大人が行ったときに、入ったところに冬の野菜特集コーナーがあると、それを見るつもりで来ていなくても、こういうのもあったのかとなる。そうしたちょっとしたテーマ、身近なことでも大きなことでも、興味を引くような本の扱い方が、まずひとつ思います。

決まりごとのようになっていますが、7月から8月に大人向けの平和図書を特集して図書館に置かれているかと思っています。図書館にはあると思いますが、特集として手に

取れるような展示の仕方をされていますでしょうか。そうしたら今はコロナ感染症のことはどのように発信されているのか、環境はどうか等、一般向けの図書と同じことが学校でもあると思うのです。ですから、ある図書をどのように提示するかということ。掲示の仕方は驚くぐらい、きれいと思うような工夫をしてくださっているから、それを何に使うかということを工夫していただいたら、中学生にとっても興味のあるものを掲示できるのではないかと思います。

高垣副会長

ありがとうございます。3回めになります。西中学校の学校図書室の方ではビブリオバトルの後、すべての本を展示して簡単な内容も一緒に添えたりして、どこの誰が発表したなども全部合わせたコーナーを作ってくださいましたが、手に入りにくい本もあったと思います。他校のことはわかりませんが、季節ごとに展示は変わるというようにさせていただきます。それがどの中学校も小学校も同じレベルになっていけば良いと思います。

小林委員

私も全然学校のなかのことは、想像でお話しているだけなのですが。

辻野委員

ビブリオバトルですが、私たち毎月広報を録音していますが、今までビブリオバトルで、例えば優勝した子どもたちが記事になったことはありますか。

田中館長

はじめての年だったと思いますが、中学生大会を広報で取り上げていただいて、何ページかに渡って特集していただいたことはあります。

辻野委員

ありましたか。毎月図書館だよりがありますね。そこにビブリオバトルの本や子どもたちの写真や、優勝準優勝など、小学生中学生の部ともに取り上げて、小さな特集になってもいいですから、毎回載せるようにすると子どもたちの励みになりませんか。自分がもうちょっと頑張ろうということになるように思います。

田中館長

図書室だよりを各学校で出してくださっていますので、図書室だよりにビブリオバトルの結果を、特に優勝あるいは準優勝となった生徒の学校については、かなり大きく扱ってもらおうと効果的かと思います。

辻野委員

学校の図書室だよりでなく、市民がみんな目にする広報に載せたら、市民への啓発にもなりませんか。

田中館長

広報では、特集は第1回目だけなのですが、フォトニュースという写真入りのページには毎回載せていただくことにしています。

辻野委員

毎回載っていますか。

田中館長

はい。

辻野委員

そうですか。載っていましたか。

私たちが録音する記事には、きっと選ばれてないのですね。

田中館長

他の記事を含めて何枚も写真が載りますので、そんなに目立たないかもしれません。

辻野委員

もう少し目立つようにしたら良いと思います。

福井会長

そういう工夫もこれからしていただいて、目を引くような良い広報の掲載方法を考えていただければと思います。

他にございませんか。

北本委員

図書購入の予算ですが、この資料を見ますと、715万円が本館で、300万円が田原図書館。来年度はどのように本を充実させていくかお考えはありますか。以前は児童書にお金を重点的におっしゃっていましたが、どのような方針か、お聞きしたいと思います。

田中館長

去年から、本館が745万円で、田原が今回載せているよりも少ない額の予算であったのを、田原の児童書が開架の冊数が少ないという声をお聞きしておりましたので、増やすために田原の方へ本館から30万円ほど異動して充実を図りましたが、しばらく継

続したいと思っています。来年度、今回予算要求するにあたっては、通常予算としては今年度と同額で要求したいと思っていますが、それとは別に、先ほど申し上げたように、市立図書館から中学校の図書室への蔵書面でのバックアップを強化したいと考えており、ふるさと納税に「子どもたちに本を」という枠がありますので、その活用のために特別に予算を要求して、中学生向けの図書を充実させ、先ほどご意見が出ておりました、中学生向けの特集コーナーの設置などに充てたいと考えております。

羽森委員

先ほどPRのお話がありましたが、最近私、土曜日に総合センターの1階に来ていることがあり、子どもたちの様子を見ているのですが、一階の入り口左側の展示コーナーには、子どもたちがよく来ているのですが、図書館までは足を運んでいる児童が少ないような感じがしています。しかし、総合センターのすぐ近くのちびっこ公園にはすごい人数の子どもが遊びに来ています。図書館の近くに子どもが来ているのに、なかなか図書館まで足を運んでいないことから、公園の近くにPRするものを掲げたり、もし午後4時や5時ぐらいに時間が許せば、図書館の方にPRに出向いていただいたり、何かしていただいたら、図書館に来る児童が増えるのではないかと思います。公園には遊具で遊んでいる子どももいますが、何時間もしていたらつまらなくなってくる子もいると思いますし、そのなかの子どもたちを図書館に引き寄せることができる何か手立てがあればというように思いますので、検討していただければと思います。

福井会長

ありがとうございます。

田中館長

お話しいただきましたとおり、隣の公園には常に子どもたちがたくさんいる状況です。しかし、そこへ出向いてPRする発想はございませんでした。確かに出向いておはなし会の呼びかけなどをしても良いのではと思いました。

福井会長

紙芝居などを。

田中館長

考えてみたいと思います。

福井会長

他にはございませんか。

福井分館長

昨日田原小学校の3年生が田原図書館に見学に来てくれました。いつもすごくマナーがよくて、たくさん質問もしてくれました。例えば、おじいちゃんの足がこわばっているから理学療法に関する本を探してほしいとか、「君の臍臓を食べたい」を読みたい等、即効性のある方策もあると思いますが、田原小学校図書室の整備が出来まして、読んでいる子どもはかなり読んでいると思います。しかし、読まない子は全然読まない。この2分化ですが、確実に本を読む子を育ててきたという実感が私はしまして、長い目で見ることも必要ということがひとつと、ご指摘ありましたように即効性ある問題を両方考えなくてはいけない現状ですが、学校図書館の整備に伴って、確実に読む子どもの力についてきていると実感したことをご報告させていただきます。

福井会長

ブックスタートは、皆さんが、当然、検診の折に参加ということで、90パーセント以上の方に本が行き渡っているということですが、その後のフォローは、年一回の0歳児から6歳児までの子どもと父兄を相手の講座が開かれています。一回より、ブックスタートが毎月12回行われていますので、そのお母さん方の登録もしていただいているようですが、なんとかまた図書館に足を運んでいただけるような取組みを募集して、特にこの昨今育児ノイローゼというような問題も起こっていますので、図書館がそのような方に声を掛けていただくと、図書館に来たことによってお友達ができて、話し相手ができるというのも、良いのではないかと思いますので、できれば1回ではなく、もう少し回数を増やしていただけるような、予算措置をお願いできればと思っています。

田中館長

ご指摘いただいたとおり、ブックスタート後、図書館に継続して来ていただけるように、なかなかならないことは、長年抱えている課題と思っています。その点を意識しまして、ブックスタートのフォローアップとして、保護者向けに絵本の魅力を発信する講座や講演会等をやっていきたいと思っていますところでございます。そうしたことをいかに計画していくかを、予算要求にあたってしっかり考えたいと思っていますところでございます。

福井会長

他に何かございませんか。

小林委員

中之島にできた児童図書館、安藤忠雄さんが寄付したという、テレビでしか見たことがないのですが、本が表紙が見えるように展示してあって、夢のような、学校でもこのあたりの図書館でも考えられないのですが、手に取りたいような置き方がされているということです。蔵書が1万冊と言うことですが、児童書で1万冊というと、そんなに多くないかも分かりませんが、テレビで見たら、私が以前に勧めていたような本が並んでいるのです。新しいのを取り揃えている。知っている本が並んでいる。子どもと親が一緒に行って、寝転びながらどれを読もうか、やりとりしながら読むような、また遊ぶような空間のなかで、大人も子どもも本と一緒に楽しめるように見えました。この建物の2階は、なかなか入りにくいですね。でもそれは仕方のないことだから、例えば、1階の小ホールが開いている時に、親子向けの児童書をランダムに置いて、この一週間は親子で本を見ましようということもできるのではないか。ブックスタートの時にそのようなことも併せてPRしていく。数名の職員で準備をするのは、すごく大変なことだと思いますが、上から下へ持って降りてきてもらうことがすごく大きいことになるのではないかと思います。

福井会長

今、職員だけではとても大変でしょうから、ボランティアを募られたら、教育してくださる方はたくさんおられると思います。募るのも労力と思いますが。

福井分館長

コロナ禍で出来なくなりましたが、面展台を、段ボールで、例えば田原の広場や、機能的に展示できるしかけをコロナ禍の休みの間に皆で作りました。岩出恵子さんの講座も去年、今年と開催したのですが、基本的には皆様と同じ考え方で、専門的ではなくても、普通のお父さんお母さんが受けられる講座に田原図書館は力を入れていきたいと考えており、次のステップ、コロナ禍が終われば、面展台を使って考えております。以上でございます。

福井会長

他にはございませんか。

林委員

若者向けコーナーを本館に作って、確か昨年度、ライトノベルを置いている本棚を設置されたと思いますが、その利用状況を知りたいと思います。そのコーナーの本を若者が借りているのか、私のような年齢層が借りているのか。それが若者の利用になってい

るのが知りたいので、今はそういう数字が出ないと思いますが、ソートをかけたら人数や、この年代が何冊そのコーナーの本を利用しているかが出るのではないかと思いますので、次回に分ければ教えていただきたいと思います。

田中館長

分類ごとの統計は出せるのですが、さらに年齢別、コーナー別に出すのは今のシステムでは難しいです。中学生の読書離れ対策に力を入れなければならないと考え、コーナーを設けた次第ですので、時間があるときにコーナーを確認しているのですが、ティーンズコーナーというタイトルにしておりますので、概ね集まっているのは、中学生ではないとしても、比較的若い世代の状況でございます。そのティーンズコーナーには、今は文庫しか配置できていないうえ、書架も自前で調達したもので立派ではありませんので、そうした点を含めてコーナーを強化するため、ふるさと納税を活用した予算を要求したいと思っております。

福井会長

ありがとうございます。それでは5時も回りましたが、そろそろ閉めさせていただきたいと思います。もうお一人ぐらいどなたかございませんか。

なければ今年度の予算要求におきまして事務局の方で、ただいま皆様から発言していただきましたご意見やご提案を踏まえて、予算要求にあたっていただきたいと思います。

田中館長

はい。ご意見をPRの方策などを中心にいただきました。今後のサービスに生かしたいと思います。いただいたPRの方策は児童サービスが中心でしたので、児童サービスを強化する方向で予算要求に反映したいと思います。よろしく願いたします。

福井会長

お願いします。

それでは、次に議題3に移ります。その他について、事務局から何かありますか。

田中館長

はい。2点、情報提供させていただきます。

1点は、かねてより進められてきました市民総合センターを含む公共施設の再編計画についてです。昨年度、施設再編計画について、原案の策定を以て、市長自ら出席のもと、市民方々との意見交換会が5回に渡り実施されましたが、そのなかで様々なご意見

をいただいたことを受け、市民参加のもと、さらなる議論を重ねることが必要との認識から、各方面の代表の方に参加いただいて検討会が立ち上げられました。現在、2回開催されており、今後は、第3回が11月7日午後2時から、第4回が12月7日午後6時から、ともに市役所3階委員会室で開催される予定でございます。最終の検討会終了後は、まとめられた意見を踏まえ、計画内容が再考される予定でございます。

この検討会は、傍聴可能ですので、よろしければお越しください。

続き、2点めは、教育振興ビジョンの全面改定について、次長から説明させていただきます。

阪本次長

お疲れのところ、もうしばらくお時間をください。四條畷市では、この度、将来を担う子どもの生きる力を育むという観点から、本紙の総合計画に定めております教育分野、このなかで子どもたちの育ちと学び、それから健やかな成長に重点を置いた教育大綱を策定いたしました。図書館の活動につきましては、従来は教育振興ビジョンに基づいて進めておりましたが、この教育大綱と共有する形で、令和3年度に教育振興ビジョンを全面改訂いたします。現段階では仮称で、教育振興基本計画という名称で考えております。実際の策定作業に入りましたら、皆様からご意見をいただくことになるかと存じますが、その際はご協力賜りますようお願いいたします。

福井会長

ありがとうございます。

それでは、委員方々から、何かございますか。

ないようでしたら、令和2年度第1回四條畷市立図書館協議会を閉会したいと思います。では、閉会にあたり、高垣副会長から挨拶をお願いします。

高垣副会長

ありがとうございます。いつも会議の進行を聞きながら、最後に何を言おうか、前もって準備しておくことができないので考えるんですが、今回言っておきたいと思うのは、私が所属しているサークルの四條畷おはなしの会のことですが、この活動も昨年度の3学期と、今年度の1学期は停止となり、子どもたちにお話を届ける機会がない状態でした。保育所には、構いませんと言ってくたさるところには行かせていただいていたんですが、その時は透明のマスクをして、行かせていただいています。2学期もまだ無理だと、夏休み明けごろには予測していたのですが、3校はおはなし会を実施してください

ました。学校の休みの期間が長かったので、もう3学期もないだろうと思っていたのですが、学校のスケジュールがタイトになり、頑張っ詰め込まなければならない状況下で、おはなし会に来てくださいと言ってくださったことにはとても感謝して、いい時間を子どもたちに持たせてあげたいと思い、今日からまた練習したいと思います。

そのことが1点と、西中学校で図書館のボランティアをさせていただいて、昨年の協議会の時に、図書室にない本を図書館から借りられないかと思っていたことが、実際に今年度になって実現されたことがすごく嬉しく感じています。その利用がうまくいっているかどうかまでは分からないのですが、学校の図書室にいながらにして図書館の本を借りられるようになるなんて、なんて素敵なことだろうと喜んで、またそれも感謝させていただいております。

ボランティアは、図書室の本を借りられるのですが、偶然目についた1冊を借りて読んでみたら、結構面白く、自分はおはなし会に関連する本や児童文学などの本を読んでも、中学生が読んでいる本はあまり読んでこなかったもので、読んでみれば今はこんな本があるのだな、面白いと感じさせていただけで、自分の環境がとても充実しているなど思わせてもらっています。

それから、先ほど小林委員が中之島の児童図書館のお話をされて、自分が昔見た絵本があったとおっしゃっていましたが、私たちおはなし会では、古典絵本と言われる長く読みつがれて、何回も再販されているような絵本を厳選して、これは間違いのないという、一度手に触れて絶対子どもたちに読んでほしいと思う絵本やお話を選んで学校に届けさせてもらっています。うまくまとめられませんが、児童図書館に自分が子どもの時に見た絵本があるのは大正解とさせていただいて、図書館にはそういう絵本の充実もお願いしたいと思いますし、私はボランティアとして勉強していますが、一般の方にも、赤ちゃんを産んだばかりのお母さんたちにも知ってもらいたいと願って活動させていただいております。協議会とは関係のない話になりましたが、そういうメンバーが同席しているということで、今日も一日会議ありがとうございました。

福井会長

それでは、これをもちまして閉会します。

上記議事録の顛末を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和3年1月29日

四條畷市立図書館協議会会長 福井 多恵子

同 委 員 羽森 清司